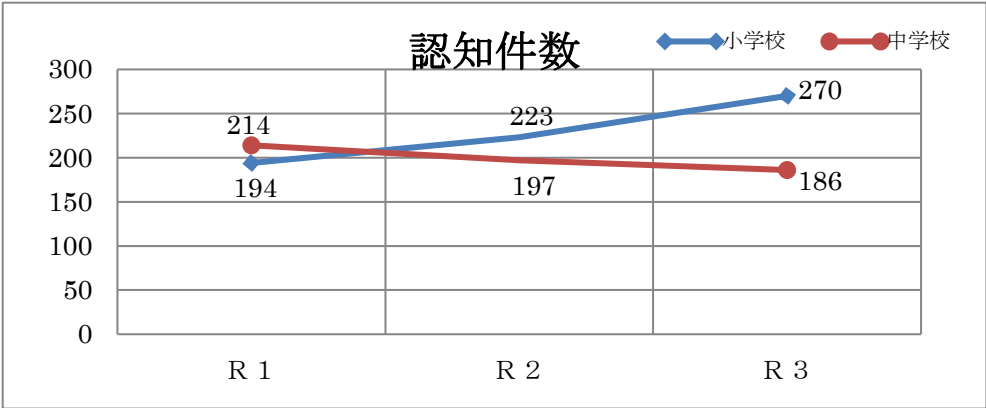


令和 3 年度 松江市におけるいじめの認知状況について

＜松江市におけるいじめ問題の現状＞

松江市におけるいじめ問題の現状については、松江市「いじめに関する調査」の調査結果による。

(1) 松江市における小・中学校別いじめ認知件数の推移 (R 1 年度～R 3 年度)



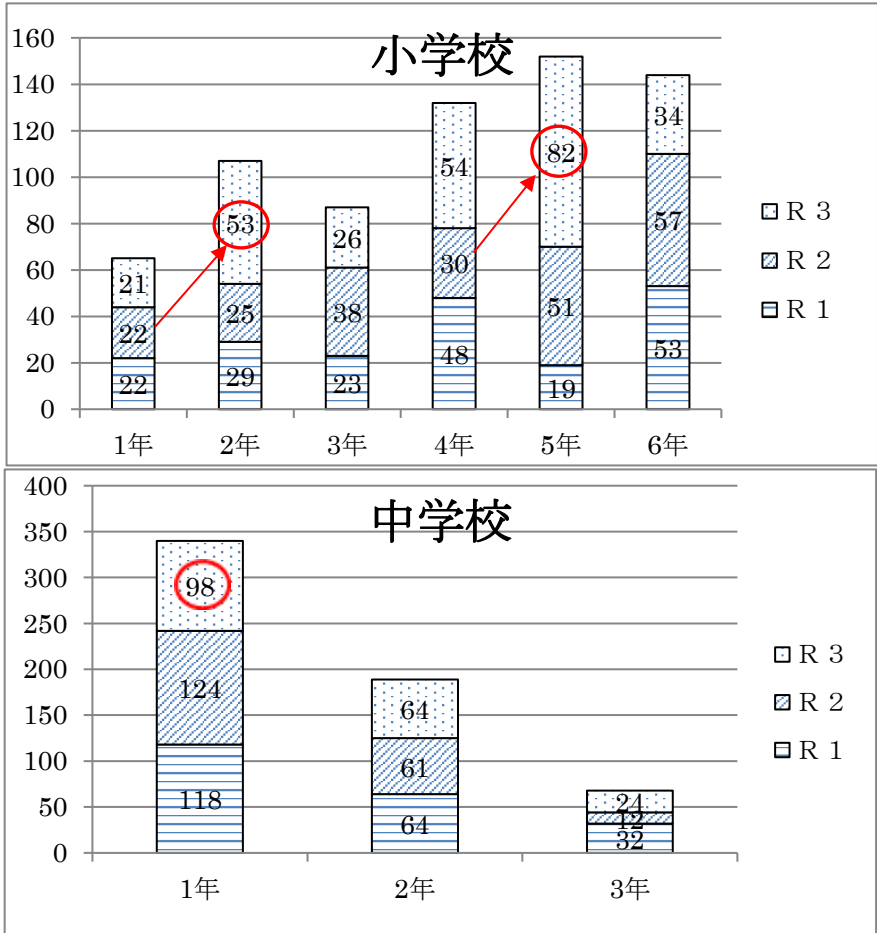
POINT

近年、各学校における積極的ないじめの認知が定着し、小・中学校ともに認知件数は200件前後を推移していた。しかし、昨年度は、小学校における認知件数が50件近く増加した。小学校からの報告によると、落ち着かない学級での暴力行為が増えており、暴力行為を伴うけんか（双方の加害行為により2件として計上）をいじめとして積極的に認知していることがわかる。

引き続き積極的な認知に併せ、いじめ事案への適切な初期対応や組織的対応、いじめの未然防止に向けた学校の取組をより一層進めていく必要があると考える。

(2) 小・中学校の学年別いじめ認知件数 (R 1～R 3 年度)

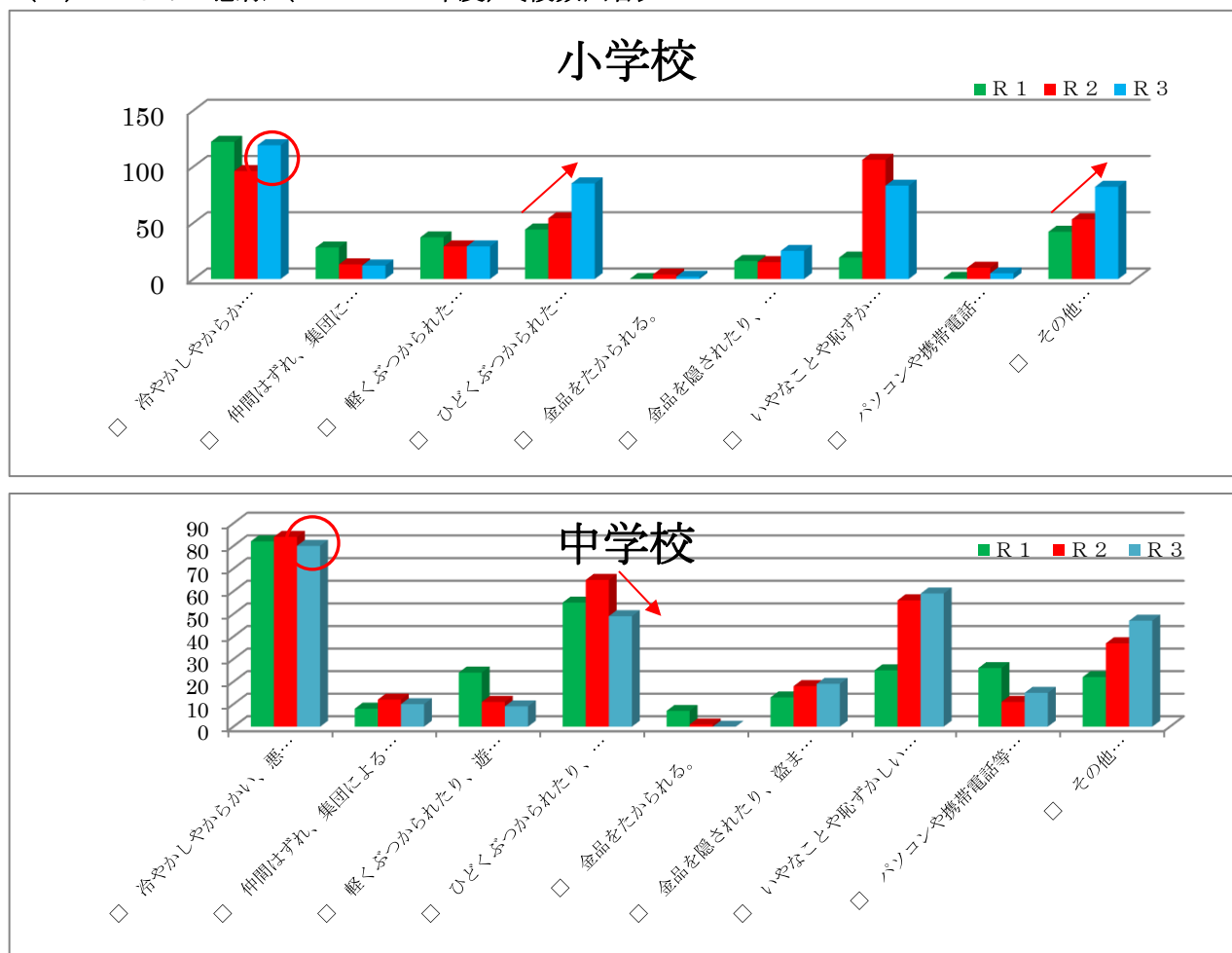
POINT



○小学校では、2年生と5年生の認知件数がこれまでに比べて大幅に増加した。この背景として、先に述べた落ち着かない学級の中で複数の児童が互いに暴力を振るうなど、いじめの加害行為をくり返す事案が多い状況があった。

○年々増えていた中学1年生の認知件数が、R3年度は減少に転じた。背景として、これまで増加傾向にあった特定の生徒が複数件の暴力行為に及ぶ事案報告が少なくなり、それによっていじめの認知件数も減っている状況がある。

(3) いじめの態様 (R1～R3年度)〔複数回答〕



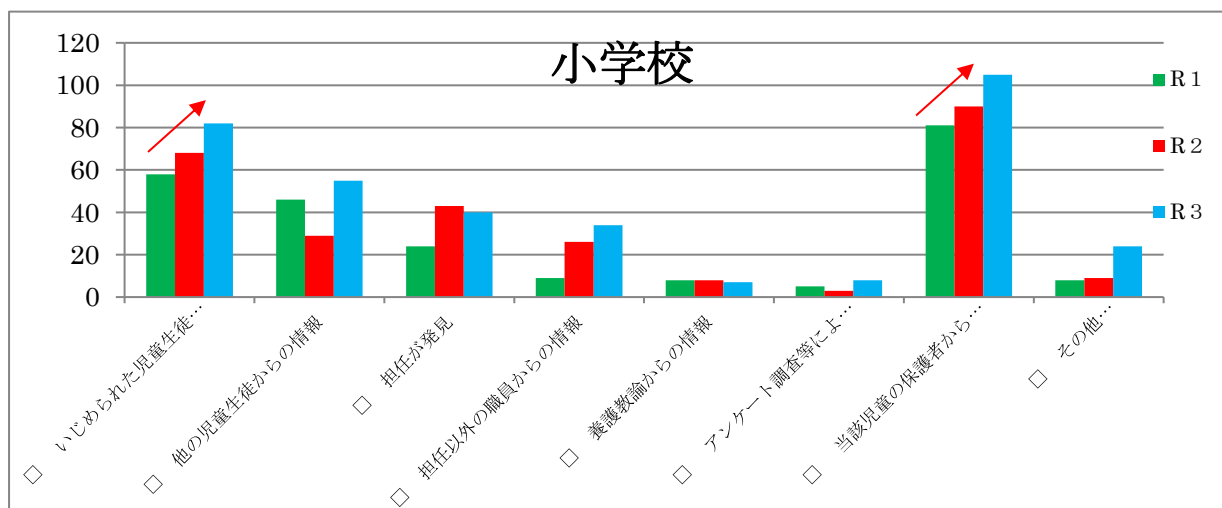
POINT

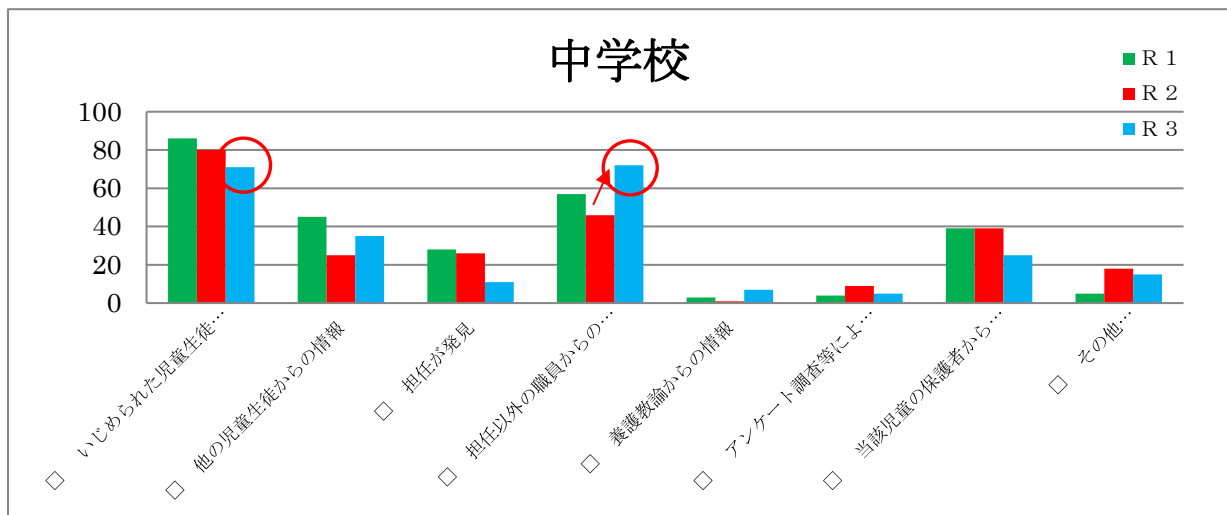
小学校で最も多かったのは「冷やかしからい、～」であるが、「ひどくぶつかられたり～」が年々増加していることが心配である。同じく「その他」も増加しているが、その内容を見ると「押された」「倒された」「首を絞められた」など、叩く・蹴る以外の暴力行為が多い。

中学校でも最も多いのは「冷やかしからい、～」であるが、過去2年間に比べ減少している。また、「ひどくぶつかられたり～」が減少しており、ぶつかる・叩く・蹴るといった暴力行為は減っていることがわかる。

これらのことから、暴力行為を止めることがいじめの減少につながると考えられる。

(4) いじめ発見のきっかけ (R1～R3年度)〔複数回答〕



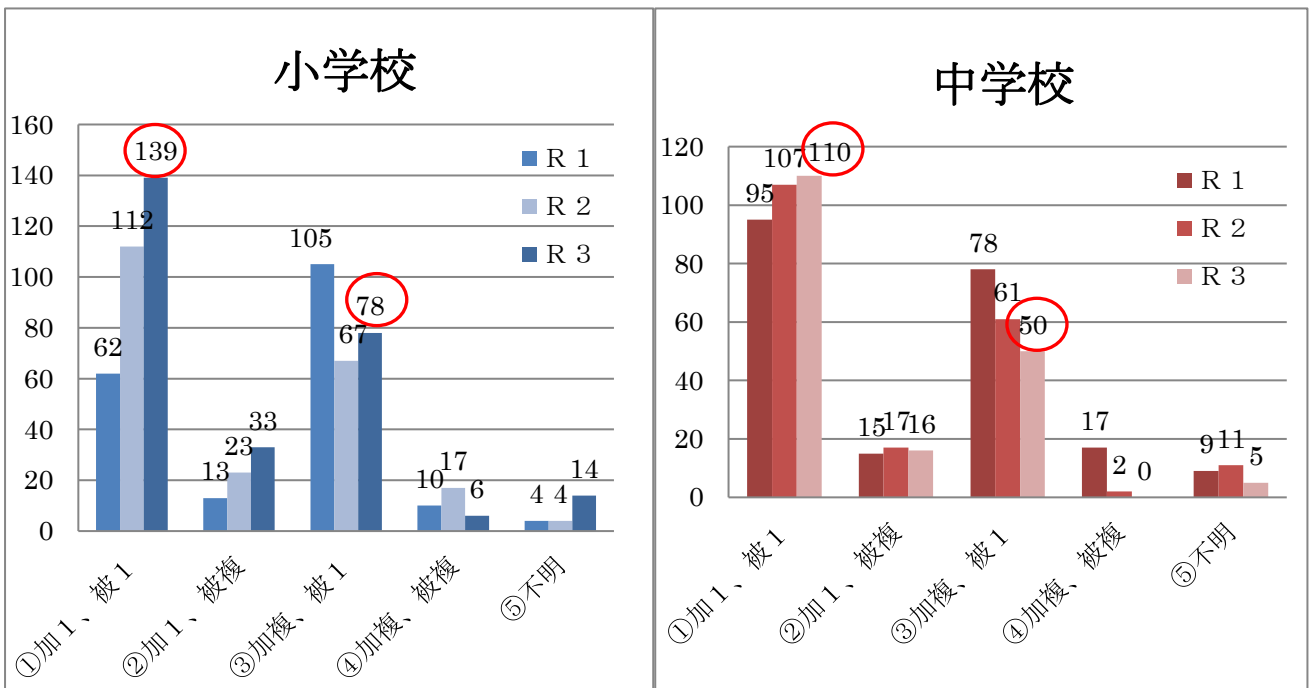


POINT

小学校では、これまで「保護者からの情報」が最も高く、次いで「いじめられた児童から」が高い割合を示しているが、いずれも年々増加傾向にあり、保護者や児童がいじめの被害を訴えやすい良好な関係づくりが進められていると考える。

中学校では、「いじめられた生徒から」や「担任以外の職員からの情報」が高い割合を示していることから、いじめを受けた生徒がすぐに担任や担任以外の教職員に訴えることのできる環境が整ってきていることが窺える。また、「担任以外の職員からの情報」については前年度より大きく増加していることから、担任だけでなく全教職員がいじめを見逃さない意識で生徒と関わり、いじめに関する情報が校内の対策組織へ確実にあがるようになってきたと考える。

(5) いじめの形態 (R 1～R 3年度)



POINT

小・中学校共に「加害児童生徒が一人、被害児童生徒が一人」が最も多く、年々増加傾向にある。これは国のいじめ防止基本方針の改定により、従来1対1のケンカや悪ふざけと捉えていた事案について、学校がいじめとして積極的に認知するようになったためと考える。

また、減少傾向ではあるが、「加害児童生徒が複数、被害児童生徒が一人」の割合が小・中学校共に2番目に高い割合を示している。引き続き、人間関係づくりや集団育成の取組、人権教育の充実等、いじめの未然防止に向けた取組をより一層推進していくことが大切である。